

---

# 【完全読み切り】霊

アクシズ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

【完全読み切り】 霊

### 【Nコード】

N8904J

### 【作者名】

アクシズ

### 【あらすじ】

シロガネ山のレッドとそのほかの人たちのお話。

## 1st Period

シロガネ山に少年が一人。相棒のピカチュウを連れて頂上まで登っている。彼は何もしゃべらない。ただ指示を彼のポケモンに出すのみだ。

彼はポケットモンスターの勝負において、カントーで最も秀でたトレーナーとして、あらゆる者との勝負を制してきた。

ピカチュウ、ラプラス、カビゴン、フシギバナ、カメックス、リザードンの6匹を操り、ありとあらゆる戦術を駆使して、闘うさまは、寡黙であるも熱いので、だれかれが「静なる爆炎のレッド（サイレントファイアレッド）」と呼んだ。

だが、彼はさらに上に登ることを望んでいた。そうすれば、今のままでは上がるなど出来ないと思った彼は、一人シロガネ山に籠もって修行することにしたのだ。

寝起きを山の最深部で行い、小動物を捕らえて食べる。野生でありながら、優れたポケモンと戦う。

昔からシロガネ山の最深部には、幽霊が出ると言われており、事実彼も透けとおる人型の光を幾度か見た。だが、彼は、とりつかれるなら、自分が弱いだけだと思っていた。

ある日、いつものように最深部で寝ようとすると、これまたいつものように、幽霊が出てきた。ただし、いつものように無口でなく、それは言葉を持っていた。

「怖いのか」

「は？」

「怖いのだろう」

一瞬、彼は下界の様子を知るために持ってきたラジオの番組を聞いているのだらうと思った。しかし、その声は、思いつき語りかけてくるのだ。

「下界の様子を知る癖に」

「またロケット団がやってきたよ。奴等はまた世界征服を企んでいるようだ」

「…そ、それがどうした」

「過去のお前なら、すぐに向かっていた筈だ」

「今の俺にはまだ力がない」

「過去のお前なら、実力の差など気にしなかったじゃないか？」

「だ…だからって何だ」

「過去の名声。傷つけるのが怖いのだろう」

「な…」

「違うのか？ 奴等に負けるのが」

レッドは、すべての拳を振り下ろした。

「蛸野郎ロケット団が怖いだと…？」

#

## Before 2nd Period

「俺はいつたいなんでこんなに責められなくてはならないのか」ということが今の自分にはよ

くわかる。それがなおさら辛いのだ。

「俺は何でこんなに弱いのだろう」ということも、わかっているはずなのに・・・

#

孤立した存在

望まれる期待

その背中に負うものが、大きすぎた。

自分への期待の大きさは、もう膨れ上がって心地よさをかえって台無しにする。

俺はあいつの彼氏で、あいつのライバルで、あの人の息子で、あいつらと永遠の宿敵で、そして多くの人にとって期待の星になっていた。

昔はそれを望んでいた。

世界の頂点に立ちたいと思っていた。

だが、あの日そこに立ってしまってから、もう戻れなくなった。

「これは俺の望むものなのか？」

自分にはそれだけの器がない。そう思う原因が多すぎて。

ごめんなさい。訳もなくそう呟いてみた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8904j/>

---

【完全読み切り】霊

2010年10月14日14時00分発行